

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2246 号

Prognostic impact of primary tumor location in Stage II-III colorectal cancer: A Single Center Retrospective Study

StageI-III の大腸癌における原発部位の予後への影響：単一施設後ろ向き研究

井上 学 (いのうえ まなぶ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

この研究の目的は、治癒切除されたステージ II-III の右側結腸および左側結腸直腸癌の原発腫瘍部位の予後的意義を明らかにすることでした。要約背景データとして、全米包括的癌ネットワーク (NCCN)、欧州医療腫瘍学会 (ESMO) のガイドラインによれば、原発腫瘍の位置は大腸癌の予後因子として注目されています。国立がんセンター中央病院で 2000 年から 2015 年に治癒手術を受けたステージ I~III の大腸癌患者 5516 人を登録し、多発癌、多重癌等を除外。StageII-III である 2434 人を対象としました。そのうち 534 人 (21.9%) に再発を認めました。患者は、右側結腸、左側結腸直腸の 2 つのグループに分類しました。初回手術後の無再発生存率 (RFS)、全生存率 (OS) を算出いたしました。また再発後の OS と再発確認日を起算日とした再発後の OS も算出いたしました。また予後因子に関して、単変量、多変量解析を行いました。結果は、左側結腸直腸癌は、ステージ II ($p=0.0037$) およびステージ III ($p=0.032$) で右側結腸癌よりも有意に悪い無再発生存率を認めました。一方、再発した患者では、左側結腸直腸癌は右側結腸癌よりも全生存率が有意に良好でした ($p=0.019$)。再発確認日を起算日とした検討でも、右側結腸癌の OS が悪いという結果になりました。2 群間の臨床病理学的特徴の比較は、年齢、性別、組織型、pT、pN、補助化学療法の有無、術後再発の有無、Stage に群間差を認めました。単変量、多変量解析の検討では、年齢、再発時の CEA、N、リンパ管侵襲、そして原発巣の部位が単変量で残り、多変量解析でリンパ管侵襲を除く、年齢、再発時の CEA、N、そして原発巣の部位で有意な差を認め、再発後の OS にこうした因子が寄与する可能性が示唆されました。原発巣切除後の再発部位の検討では、肝転移が有意に左側結腸直腸癌に多いという結果でした。要約すると、ステージ II-III の右側、左側の結腸直腸癌の治癒切除後の原発腫瘍部位は、無再発生存率の有意に独立した因子であり、再発後の全生存率についても有意に独立した予後因子でした。これは治癒切除された大腸癌ステージ II-III において、再発を来す前は左側結腸直腸癌の予後が悪いが、一旦再発すると右側結腸癌の長期予後が有意に悪くなるという論文です。